

教育講演 3

MITRACLIP を有効な治療法として根付かせるには？

天木 誠

国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 心不全科

Summary

経皮的僧帽弁形成術 MitraClip は、主に心不全患者に併発する二次性僧帽弁閉鎖不全症（MR）に対して急激に普及している。保険償還後 2 年で 2000 例以上に行われている。日頃実臨床で心不全を扱う循環器内科医としてこの治療の適応、効果等について周知することが重要である。これまでのエビデンスから、この治療は極めて安全に MR の制御が可能である。一方残存 MR が手術より多いことがわかっており、手術可能な一次性 MR おいて第一選択とはならずハイリスク患者に限定される。心不全に伴う二次性 MR においては、外科のエビデンスも乏しいことから MitraClip の役割が期待されている。特に 2018 年に発表された薬物療法と MitraClip 併用群の多施設 RCT 研究の COAPT 試験では、これまでの外科治療で証明されなかった予後改善効果を認めた。MitraClip 使用を押し進めるランダム研究となっている。本講演では MitraClip の適応、エビデンスならびに今後の方向性について講演したい。

略歴

天木 誠（あまき・まこと）

1999 年東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業

[職歴] 亀田総合病院初期研修、慈恵医科大学付属病院循環器内科専門修練医、東京医療センター循環器内科専門修練医、国立循環器病センター心臓血管内科レジデント心不全科専門修練医、Mount Sinai Medical Center Innovations in Imaging and Intervention を経て、2020 年より国立循環器病センター 心臓血管内科心不全科医長。

[専門領域] 弁膜症カテーテル治療、診断（経胸壁・経食道心エコー）、心不全